

あとぼり 跡堀遺跡

海老名市No.82

調査期間 2013年4月1日～2014年8月15日

所在地 海老名市門沢橋

時代 近世、中世、奈良・平安、古墳、
弥生

調査原因 中日本高速道路株式会社による新東
名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化
財発掘調査

遺跡位置 JR相模線門沢橋駅北西約600m、相
模川左岸の標高約14mの平坦な自然
堤防上



主な調査成果

近世では溝状遺構がとても多く、陶磁器や芥子面などが豊富に出土しました。中世の遺構は多くはありませんが、3つの調査区の東側を南北に貫く溝状遺構や、下駄や木椀が出土した井戸などが発見されました。奈良・平安時代では旧河道が発見され、その旧河道近くには竪穴住居跡も確認されています。弥生時代後期から古墳時代では多くの竪穴住居跡が発見され、土器が出土しています。これらの成果により相模川左岸の低地における当時の人々の生活の一端を知ることができました。



P8・9地点3号溝出土 磁器椀（近世）



芥子面（近世）



P8・9地点3号井戸出土 漆椀（中世）



P8・9地点3号井戸出土 下駄（中世）